



「全世界に行って私の言葉を伝えなさい」と言われたイエスさまの望みに従って日本に来ました。長崎、横浜そして鹿兒島での長い宣教活動が待っていました。

大口教会 主任司祭

55年間の感謝を込めて

お別れのあいさつ

自分がイエスさまの望まれるような宣教師になれるか不安でいっぱいでしたが、イエスさまは錆び付いた不自由な道具でも、それを使って素晴らしい仕事を

させてくださると常に信頼してこの道を歩いてきました。そして気がつけばいつの間にか55年の歳月が流れ、手が震える82歳の年寄りになっていました。

反省することは多いです。教会で出会った多くの人に我慢をさせたり傷つけた（特に日本語の能力不足のために）したことが数多くあったことは分かっています。どうかお許しください。そしてそれを広い心で温かく受け止めてくださった方々に心から感謝しています。

「ひろさちや」は仏教、インド思想の研究・執筆をしている増原良彦さんのペンネーム。「ひろ」はギリシャ語の「愛する」を意味し、「さちや」はサンスクリット語の「真理」を意味する語の造語だという。自身は仏教を専門とされるが、この本ではキリストの教えを現代社会に当てはめながら、その真理を著者なりに吟味し分かりやすく解説する。

とも記し、その上でキリストを誘惑した悪魔はおどろおどろしい姿をしているのではなく、日本人を上手にパンの方に導いた（＝悪魔の誘惑）ように狡猾なものだとする。

信者の本棚

ひろさちや著いきいき人生シリーズ5

「イエスにまなぶ」

春秋社 定価1700円＋税



欲望がもとになっている人間の「判断基準＝世間の物差し」と人間には理解のできない神の「計画＝神の物差し」があること。著書の中でユダヤ教や仏教の思想にも触れているが、特にユ

ダヤ教には現代の為政者に近いものを感じているらしく、キリストの説く「貧しきを分け合う」という「愛」とは異質なものとして説明を入れている。

「愛する」は「好き」という意味ではない。人間だから苦手な人もいる。だが嫌いな人にも人間がなすべきことはなすべき。そしてその上で少し親切にしてあげる、それが愛。そしてキリスト教伝来の頃、愛とされる言葉をギリシヤ語で訳した「ご大切」の方向が射ているとする。

文芸



短歌

鹿兒島の伝統料理を守り来し叔母は天寿を全うされき（享年百歳）
小鳴きを繰り返へしをりし鶯が「ホーホケキヨ」と鳴く二月の半ば

+KABAYAN SEKSYON+

Nagpapanibagong Pagkilos ng Espiritung Banal

Sa pagdiriwang ng Misa, tinatawagan ang Espiritu Santo sa tinapay at alak upang panibaguhin ang "mula sa lupa at bunga ng aming paggawa" at maging katawan at dugo ni Kristo.

Sa ikalawang Panalangin ng Pagpupuri at Pagpapasalamat iniluluhog sa Panginoon: "Kaya't sa pamamagitan ng iyong Espiritu gawin mong banal ang kaloob na ito upang para sa ami'y maging Katawan at Dugo ng aming Panginoong Hesukristo.

Sa Ikatlong Panalangin ng Pagpupuri at Pagpapasalamat hinihiling ang "kapangyarihan ng Banal na Espiritu" upang "ang mga kaloob na ito na aming inilalaan sa iyo...nawa ay maging Katawan at Dugo ng iyong Anak at aming Panginoong Hesukristo na nag-utos ipagdiwang ang misteryong ito."

Bukod pa roon, ang nagpapanibagong pagkilos ng Espiritu ay umaabot sa pamayanang nagkakatipon; yaong tumatanggap sa katawan ni Kristo ay napapanibago at nagiging isang Katawan ni Kristo, ang Simbahan.

"Isinasamo naming kaming magsasalusalo sa Katawan at Dugo ni Kristo ay mabuklod sa pagkakaisa sa pamamagitan ng Espiritu Santo" (Ikalawang Panalangin). Ang mga Kristiyanong napanibago ng Eukaristiya ay ipinahahayo para panibaguhin ang lipunan, upang dalhin ang tunay ng presensya ni Kristo sa isang mundong naghihintay sa kanya.

Katesismo sa Taon ng Habag (Fr. Dino Orolfo)

カトリック通信講座

1972年開設以来、入門への第一歩として、また信者の学び直し、黙想の助け、職員研修などにもご活用いただいております。

<全7講座>

- T 001☆キリスト教とは＝日本の宗教観に照らして学ぶキリスト教の概要。
- T 002☆聖書入門〔I〕＝四福音書を通してイエスの生涯をたどる。
- T 003☆キリスト教入門＝キリスト教の秘跡や信仰生活について学ぶ。
- T 004☆神・発見の手引＝人生、自然を通して神の呼び声に耳を傾ける。
- T 005☆聖書入門〔II〕＝使徒の働きとその手紙、黙示録について学ぶ。
- T 006☆幸せな結婚＝カトリックにおける結婚の意味や愛、幸福とは？
- T 007☆生きること・死ぬこと＝老いや

命、旅立つ人に寄りそうケアについて考える。

<受講料> (教材費・税込)
T 001～T 004 各4,800円
T 005～T 007 各5,300円

<お申込み>

郵便振替用紙にご希望の講座名・講座番号 (T 001～T 007) をご記入の上、下記にお振込みください。入金確認後教材をお送りいたします。

振替口座番号：00170-2-84745

加入者名：オリエンズ宗教研究所

<お問い合わせ>

オリエンズ宗教研究所 カトリック通信講座
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel.03-3322-7601



詳しくはHPをご覧ください。

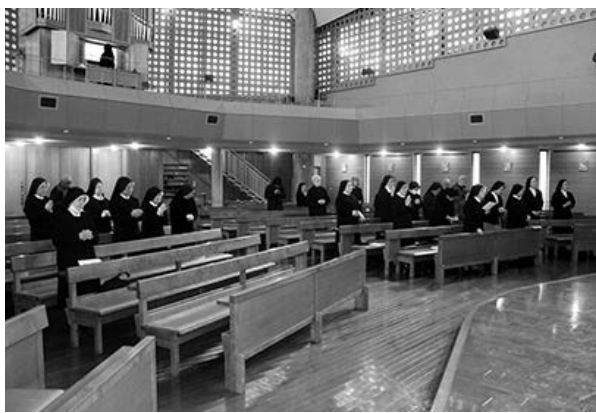


聖なる教会を証明する修道者

ザビエル教会で奉獻生活者のミサ

2月2日(土)午後、ザビエル教会で「奉獻生活者のミサ」がささげられた。これは2014年11月30日から1年間を「宣教奉仕者の証」と定め、修道者にその証を通して「世を覚めさせ」るようにと訴えた教皇フランシスコの意志を継いで実施されているもので、「司

祭、修道者の召命のミサ」。日本カトリック管区長協議会と日本女子修道会総長管区長会では、2月2日(土)午後2時から東京の麹町教会で、教皇大使ジョセフ・チエノ・ツトゥ大司教、菊地功東京教区大司教の司式でミサがささげられたが、鹿児島では午後3時か



修道者25人が集まったミサ

このミサに参列したのは、修道者25人と信徒10人余りと決して多くはなかったが、中野司教の説教で奉獻生活者について「その生き方で教会が聖なるものであることを表している」と、また「信徒も自分を犠牲

にして生きること奉獻生活者と同じように聖なる民であることを証明する役目がある」ことを学習した。ミサ後は教会一階ホールに会場を移し、茶話会が実施された。

田代神学生が祭壇奉仕者に

3月3日(日)ザビエル教会でささげられた主日のミサで、田代竜之神学生が聖体に奉仕することのできる祭壇奉仕者に選任された。



田代神学生は大笠利小教区の巡回・赤木名教会出身の26歳。現在、日本カトリック神学院の神学科に在

学。昨年、朗読奉仕者に選任されていた。この日のミサを司式した中野裕明司教は、福音朗読後の説教で司祭職に至るまでの段階を説明。その上で「パンを割く儀式」で聖変化の祈りを唱えることのできるのが叙階を受けた者だ

けだと強調し、司祭職を目指す田代神学生を応援したいとメッセージを送った。その後の選任式では、中野司教が祭壇奉仕者の役割について訓話し、その訓話を受けた田代神学生がその務めを果たすことを誓い、祭壇奉仕者に選任された。

週刊『こじか』のご案内

子どもたちの日常の言葉で主日の福音をやさしく説明し、多彩な記事やイラストでイエスさまのメッセージを伝える週刊『こじか』。受洗、初聖体のお祝いやお孫さんへのプレゼントとしても好評いただいています。



- ・毎週日曜日発行(年44週) B5判・16頁(ふりがなつき)
- ・定価65円+税(送料別) *15部以上のご注文は55円+税
- ・国内年間定期購読
1部4100円 / 2部7400円(税・送料込、2部の価格は同じ発送先の場合)



オリエンズ宗教研究所
〒156-0043 東京都世田谷区松原2-28-5
Tel.03-3322-7601 Fax 03-3325-5322
詳細はHPをごらんください。

《康由神父の聖書教室(12)》 皇帝への税金の話



共観福音書すべてに「皇帝への税金」と題された有名な話があります(マタイ22・15、22、マルコ12・13、17、ルカ20・20、26)。ファリサイ派やヘロデ派の人たちの悪意に満ちた問いに対して、イエス様が見事に切り返すことから、内容としては非常に痛快な話です。とはいっても、こ

の話は一休さんの頓智問答のようなものではありません。こうしたことから、イエス様の言葉の真意、また、イエス様の答えを聞いた彼らがどこに驚いたのかを理解するために原語から考えてみましょう。

イエス様はデナリオン銀貨を手に取り、「これは、だれの肖像と銘か」とお尋ねになります。「肖像」と訳された言葉は、私たちに馴染みあるアイコンやアイコンの語源となったエイコンです。意味としては「形」という意味があります。また、「銘」と訳された言葉には、「罪状書」の意味があります。御受難の際、イエス様の十字架に付けられた「罪状書」と同じ言葉です。このことを踏まえると、イエス様の言葉の深みが靡げに浮かび上がってきます。

創世記にあるように、人間は神の象(かたどり)として創られました(創世記1・26a、1・27ab)。しかし、被造物である人間は、原罪のゆえに罪深い存在であり、罪状書を首からぶら下げて生きる者でもありません。イエス様は「神のものに神に返しなさい」と語られました。ここで「返す」と訳された言葉は、原語では「回復する」というのが一義的な意味です。

ということは、イエス様が「神のもの」、即ち、人間は神の被造物であるからこそ、創造主である神様との関係を回復しなければならぬ、ということです。イエス様が「神のもの」と語られたとき、人間は神の似姿であり、神様から愛された存在であることを悟るのであれば、自分の罪を見つめて神様の御許に立ち返ることが出来るはずなのです。

イエス様は神様と人間との関係を銀貨によって思い起こさせ、回心の必要性を語られているのかもしれない。また、このことに気付いたからこそ、ファリサイ派やヘロデ派の人たちは、イエス様の言葉に驚き、黙り込み、その場を立ち去ったのかもしれない。

- 20日(土) 聖土曜日
- 21日(日) 復活の主日
- 22日(月) アン神父叙階記念(2006年)
- 23日(火) 市民クリスマス実行委員会・教区本部・19時
- 25日(木) マイエル神父命日(1978年)
- 28日(日) 復活節第2主日(神のいつくしみの主日)
- 29日(月) オリープの会・教区本部・14時
- 29日(月) 橋口啓悟神父叙階記念(1996年)
- 30日(火) ハンマ神父叙階記念(1963年)
- 30日(火) 谷村達郎神父命日(2018年)

【司教日程】

1日福岡大神学院開校式、3日司祭生涯養成部会(東京)、7日始良教会ミサ、8日災害対策会議(福岡)、15日司祭評議会及び教区司祭会、16日聖香油ミサ及びコンペンツス、21日奄美大島復活祭ミサ

祈りの意向

世界の共通 戦地の医師や医療従事者
日本の教会 家族

ウガンダの旅2018

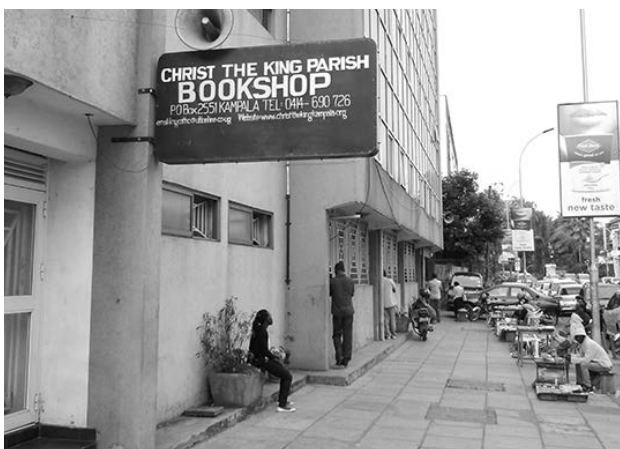
③首都カンパラに到着

谷山教会信徒 岩崎正幸

ワールド・ビジョン・ジャパンを通じて貧しい国の子どもへの支援を続けているラ・サール学園教諭の岩崎正幸さんは、昨年夏、支援している子どもがいるウガンダを訪問した。教区報では、生徒のためにと執筆した「ウガンダの旅2018」の3回目。

ドーハ(カタール)着陸前に機内食が出たから、これが一応旅の2日目、7月29日の朝食。乗り換えは再びカタール航空。さらに6時間のフライト。カタールとウガンダには時差なし。ドーハを離陸してほどなく機内食。これがこの日の昼食ということ。

この便も窓側を確保。しばらくは雲で何も見えなかったが、内陸部に入り、ウガンダが近づくと、地面がよく見えるようになる。航路図を見ると、どうやらエチオピアの上空あたりらしい。高い木はなく、草原と砂漠という感じ。湖が見えてきた。そこまで大きくないので、ビクトリア湖では



王であるキリスト小教区の外観

なさそう。あとから地図を見ると、その湖はケニアのトウルカナ湖とわかる。午後3時ころウガンダに着。国際空港だが、鹿児島空港の国内線より小さい。ウガンダの国際空港はエントベという街にあり、首都のカンパラからは40kmほど離れている。さつそくここで手配されていたワゴン車に乗り換え。団体なのでバスで移動、というのが旅行社にとっても楽なはずだが、そうできないことはあとでわかる。ワゴン車5台に分乗、このワゴン車たちには旅の間ずっとお世話に。カンパラのホテルへ。

途中は高速道路などを使って快適な移動。さすが首都への道である。ところで、空港の駐車場ですぐ気がついたのだが、車はほぼすべてが中古車、それもほぼ日本の中古車。昨年、フィリピンへ行ったときには、同じく中古車の国だったけど、アメリカ車が多く、あとはヨーロッパ車が目立ち、日本車少ない。なぜでし

よう？途中、両替所に寄る。50ドルを換金。15000(ウガンダ)シリングほどとなり、いきなり桁数が大きくなって、金銭感覚があやしくなる。

5時過ぎにホテル着。高級ホテルである。門を入るときセキユリティーチェック。建物に入るときもう一度チェック。空港ですでに案内が出ていたのであるが、このホテルにて、アフリカ会議が行われている最中。セキユリティーチェックが厳しいのは当然。チェックインを済ませ、6時半にレストラン集合を聞いてから、さつそく行動開始。

まずは受付にて絵ハガキはないか尋ねる。気の利いたホテルなら絵ハガキの1枚や2枚くれるでしょう、と思つたら甘かった。向こ

うのショップで買え、と。さつそくショップへ行つて、ウガンダらしいハガキを求める。2枚で4000シリング。そんなにするのか、と思つたが、あとで日本円に直して考えたら、2枚で100円ちよつとである。高くなかった。

この日は日曜日であるが、土曜の夜からずっと飛行機。まだその日のミサにあずかっていたくない。近くに教会があるようだ、というのには調べてあつて、ウガンダ統計協会を越えたところらしかつた。

まずはホテル周辺の地図をもらい、カトリック教会はどこか、と尋ねた。ああ、すぐそばだ、と地図に印を入れてくれたので、それを手に外へ。敷地を出るところでちよつと方向がわからなくなり遠回りしたものの、地図の位置関係がわかつてきた。おおよそこのあたり、というのにはつかんだものの、教会らしい建物は見つからず。さつきから、街頭宣伝の音がやかましい。

KJPP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 4月号

本当に辺野古移設が必要なのでしょうか？

1995年の沖縄米兵少女暴行事件から普天間返還の世論が沸き上がりました。当時、12歳・小6の少女が顔に粘着テープを巻かれ、手足を縛られ車に乗せられ、海岸で3人の米兵に強姦され負傷しました。その後3人の米兵は7年の実刑を受けましたが、その内一人はアメリカに帰国後女子大生を強姦殺害し自殺しました。

ウロウロするもの一向塚があかず。バイクにまたがって休んでいるお兄さんから声をかけられたので、尋ねてみる。「近くにカトリック教会ない？」。すぐそこじゃないかと、交差点の反対側のビルを指す。エッ、教会はビルの中にあつたのだ。見た目は普通のビル。でも確かに看板には、CHRIST THE KING PARISHとある。日本語でいうと、王であるキリスト小教区である。さつきから聞こえていた街頭宣伝らしきものは、中で行われているミサの説教だつたのだ。

中に入ったものの、モニター・スクリーンに説教の様子が出されていくだけ。いわゆる聖堂はどこにあるのだろうか？でも、皆さん熱心に説教を聴いているので、じつと座って耳を傾ける。それにしても長い説教である。ローマ教皇も説教は8分以内で、とおつしやつているはずなのだが、延々20分近く説教が続いている。

が、逆にその後終戦までは、グアムとともに日本本土空襲の拠点となりました。そしてベトナム戦争、湾岸戦争、イラク戦争で多くの飛行機がお金のために人を殺す戦争へと飛び立っていききました。

日本の安全保障のために戦争抑止力として基地が必要だと言ふ人もいます。しかし自己防衛として銃を持つ権利が憲法で保証されているアメリカで、年間何万人もの銃犠牲者が出ているのはなぜでしょうか？全米ライフル協会が莫大な資金と政治権力を握っているからです。

現実には最小限の自己防衛は必要だとしても、最も

修道会人事

▼ウオラ・ジョバンニ・ドン・ボスコ神父(レデンブートル会)は、谷山教会助任司祭。インドネシア国籍、2005年8月1日司祭叙階、43歳。

短信

正義と平和協議会

毎月第3土曜日に社会問題の分かち合いを開いている鹿児島正義と平和協議会では3月16日(土)午後、教区本部で東京電力福島第1原発事故を題材にした映画「ふくしま わすれない」の上映会と分かち合いを実施した。

中野司教種子島訪問

中野裕明司教は、3月16日(土)夕方から17日(日)にかけて、諏訪神学生を伴い種子島教会(主任司祭・栃尾泰英神父)を訪問した。

と子ども食堂

ご寄付は下記の口座にお願いします。
 ☆ゆうちょ銀行：と子ども食堂
 店名 七八八 店番 788
 普通預金 口座番号 3225173
 ☆鹿児島銀行：と子ども食堂
 県庁支店 普通預金 3019349

鹿児島教区で働く聖職者による
 セクハラ・パワハラで悩んだら
子どもと女性の人権相談室
 TEL090 (3418) 2729
 ※相談内容の秘密は厳守されます。

に5年、埋め立てに5年、施設建設に3年、都合13年は普天間返還はできない見通しです。

辺野古移設しかないという政府の主張を一度取り下げて基地負担軽減の議論のスタートを切り直すべきだと思ひます。

(谷山教会・本村裕之)

▼社会問題の分かち合い
 (毎月第三土曜日、但し4月は第二土曜日)

日時：4月13日(土曜日) 13時～16時
 場所：教区本部
 内容：原発・改憲・沖縄問題についての情報交換その他